

国労九州本部拡大委員会

2月3日（木）の13：30より、サンメッセ鳥栖にて九州本部拡大委員会が開催されました。その前段として、11時より伊藤一之氏（博多車掌区）による労働講座があり、「規制緩和が及ぼす交通労働者への影響」について講義して頂き、13時から九州本部第38回臨時大会も開かれました。本委員会は古賀副委員長の開会の挨拶に始まり、千々岩委員長の挨拶、その後、岩元中央本部書記長による問題提起が行われました。博多地区本部からは、佐藤康徳氏（久留米運輸センター）に議長を務めていただき、香田賢晋氏（博多車掌区）、岩田佳史氏（博多運転区）の2名の代議員に職場の問題点や組織の在り方について発言していただきました。最後は、西山書記長による集約があり、千々岩委員長の「団結ガンバロー」で閉会しました。



労働講座で講義する伊藤氏



議長を務める佐藤氏



毎回恒例の団結ガンバロー！



香田 賢晋 代議員
（博多車掌区）

国労のマイナスイメージとして組合費の高さを出してくる者が多いが、高いと言ってもその差はたかが知れている。そもそも、こうした意見の根本には、「何から何まで組合に面倒を見て欲しい」といった「甘え」がある。自分の人生は他でもなく自分のもの。自分が組織を通じて自分自身のために何が出来るのかを考えられない視野の狭さ意識の低さには呆れる。組合員の皆様には、これまで通りの活動を続けて欲しい。組織拡大、労働条件改善等さまざまな課題があるが、切り詰めて何か特別なことを始める必要はない。趣味をはじめとする個人の得意分野を組合活動に活かすといったように、活動そのものを楽しむ姿勢だけは大事にして欲しい。いざというときの行動力や判断力は「楽しいこと」を通してしか生まれない。国労米原列車区分会が発行している機関誌「ほんせん」の過去の記事にも記載されていたように、「一人一人が輝いている」ことこそが強い組織であるための条件だと思う。